

●●●●● 《獣害対策の手引》 ●●●●●

はじめに

これまで、野生動物の被害を防ぐために、伊根町では、電気柵の補助、有害鳥獣の駆除等の対策を行っていますが、サル、イノシシ等による農作物被害が衰えない状況であります。

そのため、伊根町野生鳥獣被害対策運営協議会では、野生鳥獣の被害を防ぐために、伊根町における被害の中心である、サル、イノシシの被害生態と対策をまとめましたので、ご活用ください。

イノシシ生態と特徴

よく活動する時間帯

人目につかないところでは、基本的に昼間に活動します。

人里では、人間を避けるため、ほとんど夜間に活動します。

性格と行動パターン

きわめて警戒心が強く臆病な反面、安全な場所だと判断すると大胆な行動に出ます。

音、光、匂いなどのおどしや忌避剤は、長期的には必ず慣れて、効果がなくなります。

非常に賢く、6ヶ月前の出来事を記憶しています。

行動範囲は2～3km²で、時期により広がりを見せる。定着と行動を繰り返す。

好む場所

体温調節や寄生虫を落とすための泥遊びをします。水田は泥遊びに最適な場所となります。

草が生い茂った耕作放棄水田は、安心して活動する場所になります。

抜群のジャンプ力

成獣は最大120cmを飛び越えることができます。

柵などの障害物を跳び越えるときは、周囲を警戒するため必ず立ち止まります。勢いをつけてジャンプすることはありません。

鼻は万能の道具

嗅覚は犬並みで、非常に優れています。

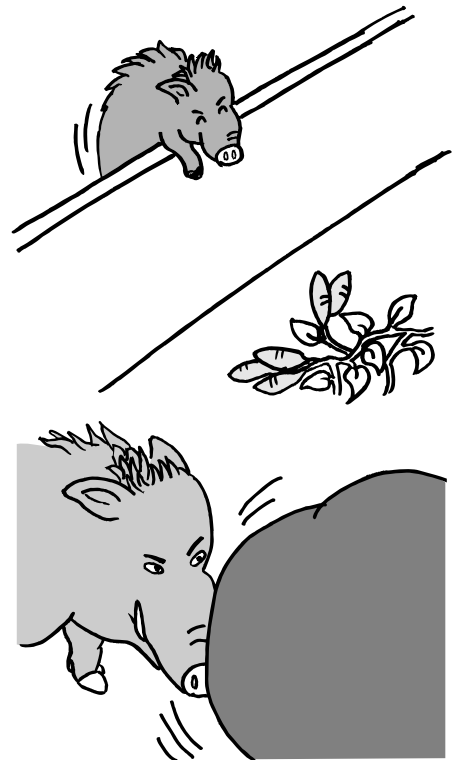
鼻先を使って、押したり、掘ったり、転がしてあらゆる物の反応を探ります。

成獣は最大70kgのものを鼻で持ち上げ、地面を掘り返す力も強力です。

石の下にいる虫などを好んで食べることから、大小にかかわらず石を転がす習性があります。

食べ物

雑食性で、ほとんど何でも食べます。



春.....タケノコ、夏から秋.....稲の穂やクズの根など

秋季.....ドングリ類、晩秋から冬季.....主に植物の根や地下茎

出産準備のため秋には好んでミミズを食べます。

山のエサと比べて、野菜や果実の収穫残さや、放置された生ゴミは栄養豊かなエサになります。

繁殖能力

メスは生後1歳6ヶ月で妊娠可能になり、2歳で初めて出産します。

基本的に1年1産で、4～6月頃に1回5頭前後を出産します。

人里や農地で豊かな栄養のエサを食べる個体は、毎年出産が可能になるとともに、死亡率が低下するので、群れの頭数増加につながります。

その他

群れは母系社会。成熟オスは普段は単独行動し、交尾期だけ群れに入り込みます。

寿命は自然状態ではオス6歳、メス10歳程度です。近年、捕獲が進み高齢個体は少なくなっています。

防除対策

集落をエサ場にさせない

収穫しない柿などを始め、盗られてもかまわない農産物など、気づかずに与えているエサに気がつくことが重要です。

水田では、ひこ生えや落ち穂を与えないように、必ず秋起こしをしましょう。

野菜畑では、収穫を終えた野菜類は株元を切断して、枯れあがらせましょう。やせたイモやイモヅル、根菜類の葉っぱなど野菜クズも放置しないで、土に埋めるかコンポストで腐熟させてください。熟して落ちた果実もエサになります。果実を収穫する見込みのない果樹は切り倒しましょう。

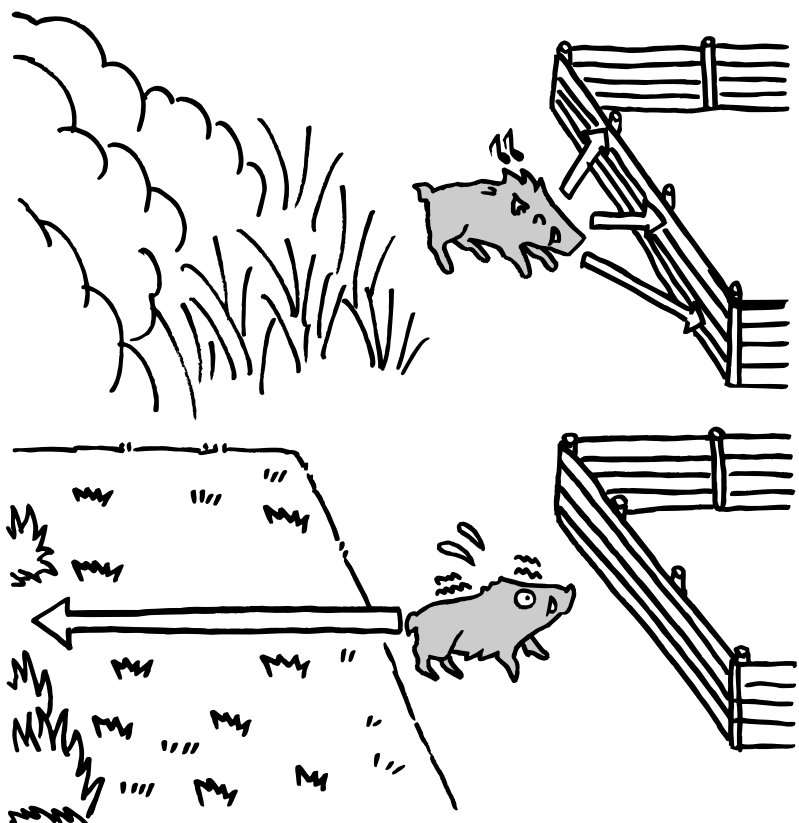
農地を住みかにさせない

草などが生い茂った休耕地や耕作放棄地は、イノシシにとって格好の住みかになります。

耕作放棄地は集落ぐるみで草刈りを行い、見通しをよくしておくことが重要です。

防獣ネットや、柵を設置するとともに、農作物の作付け位置を工夫するだけで、農作物被害が減ります。

生産者の皆さんが経験的に「この農作物はあまり被害に遭わない」「この作物ばかり被害に遭う」ということがあれば、里に獣が好む作物を作付けし、人の出入りが少ない山際に獣が嫌がる作物を作付けしてください。



サル生態と特徴

エサを求めて集団で移動

少なくて数頭、多くて70頭程度の母系社会の群れを形成し、エサを求めて移動します。
成獣オスは、普段は単独行動し、交尾期だけ群れに入り込みます。
「はぐれザル」は群れの偵察役。やがて集団でやってきます。

豊富なエサが頭数を増やす

エサが乏しい山奥のサルは、初産までに生後6～7年を要し、出産間隔は2年に1回以下です。赤ん坊の死亡率は半分近くあるので、現状維持が精一杯で頭数は増えません。
栄養が豊かな人里のサルは、生後4～5年で初産を迎え、ほぼ毎年出産可能です。赤ん坊の死亡率も2割以下と低く、数年で2倍の頭数になることもあります。

性格と行動パターン

侵入の最初は臆病ですが、徐々に慣れて、人間を恐れない大胆さを身につけるようになります。
早朝の被害を夜間の仕業と勘違いすることがありますが、日の出から日没のみ活動する昼行性です。
音、光、匂いなどのおどしや忌避剤はすぐに慣れて効果がありません。



好む場所

高いところを飛び移って逃げるため、木や建物のある場所を好みます。

食べ物

雑食性でほとんど何でも食べます。
野菜や果物の収穫残さや、取り残し、廃棄食品は栄養豊かなエサになります。
苦味に強いですが、辛味に弱いです。

その他

寿命は長くて25年程度です。

防除対策

イノシシ同様に「盗られてもかまわない農作物」、「気づかずに与えているエサ」に気づき、人里や農地では徹底してエサを与えない努力をしましょう。

集落から山へ逃げる時に、次々に飛び移ることができる樹木があれば、切り倒して、サルの通り道を遮断しておくことが必要です。

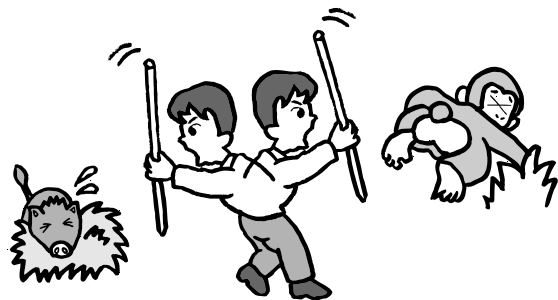
追い払う

集落や田畑をエサ場だと覚えさせないために、農作物の生育期や収穫期だけでなく、年中追い払う。

女性・高齢者でも出没当初から追い払いに参加しないと、逃げない習慣がついてしまうので、見つけたら犬や花火などを使って、みんなで追い払う。

サルを見かけても、かわいいと思うのは禁物です！！

「サルは賢いからしょうがない」と諦めてはダメです。割と賢くありません。



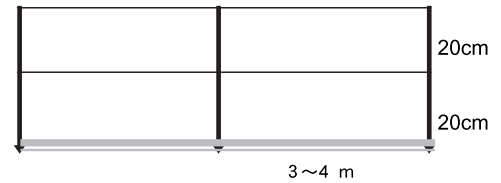
防除施設（電気柵）について

イノシシ対応

基本は2段～3段（40cm～60cm）

もぐりこみに注意

鼻に当たるように設置



サル対応

ネット

網柵は、サルの侵入を遅らせる効果はあるが、侵入を防ぐことはできないので、追い払い体制の整備も必要。

電気柵

設置、維持管理がきちんとできれば最も効果が高い方法の一つ。

電気柵とは、ただの学習システム

最初のショックが肝心です

ここは、危険な場所だと野生鳥獣に学習させる

電源の管理：少なくとも設置後すぐ（約1ヶ月）は昼夜電源を入れる

アースの管理：十分な深さ、十分な本数、十分な距離

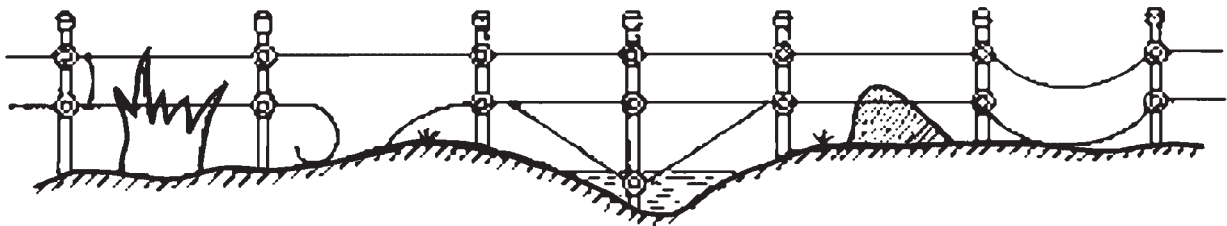
こまめな管理：電圧の低下を確認する。草等による漏電を防止する

スキをつくらない：適切（地形にあった）な設置をする

自分の電気柵をもう一度チェックしましょう

チェック項目

接線の不良箇所



草が接触

切れて地面に接触

水に触れている

石・トタンに接触

地面に接触

アース

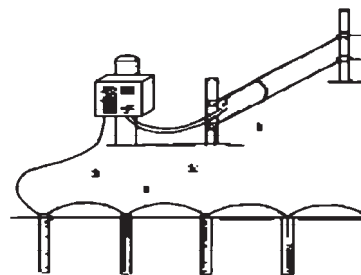
十分な距離をとる

十分な本数を使う

しっかり埋め込む

湿った場所に設置する

* 消耗品です、たまにチェックしましょう。



【問合せ先】

伊根町野生鳥獣被害対策運営協議会

事務局 伊根町地域整備課 ☎32-0505